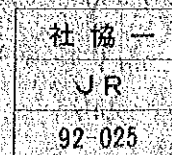
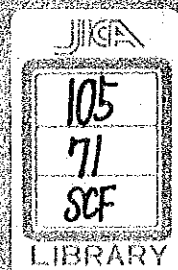


中国道路交通管理幹部  
訓練センタープロジェクト  
巡回指導調査団報告書

平成 3 年 9 月

国際協力事業団



国際協力事業団

23392

JICA LIBRARY



1099492(9)

23392



## 序 文

今般、当該プロジェクトの進捗状況を詳細に把握するとともに、改善を要する問題点及び今後のプロジェクトのとり進め方について中国側関係者と協議するため、平成3年6月20日から6月29日までの10日間、警察庁長官官房審議官（交通局担当）賀来 敏氏を団長とする巡回指導調査団を派遣した。

本報告書は、同巡回指導調査団の現地における調査・協議結果についてとりまとめたものである。

終わりに、今回の調査の任に当たられた調査団員各位並びにご協力いただいた外務省、警察庁、運輸省及び在中国日本大使館その他関係機関の方々に対し、深甚の謝意を表する次第である。

平成3年9月

国際協力事業団

社会開発協力部

部長 中 村 信





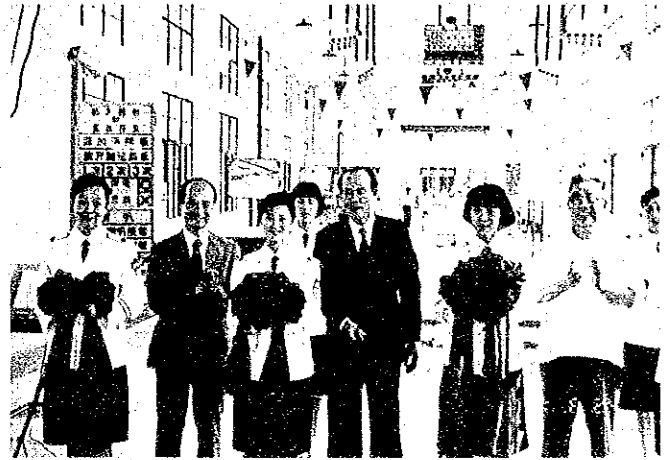
▲ 合同委員會協議



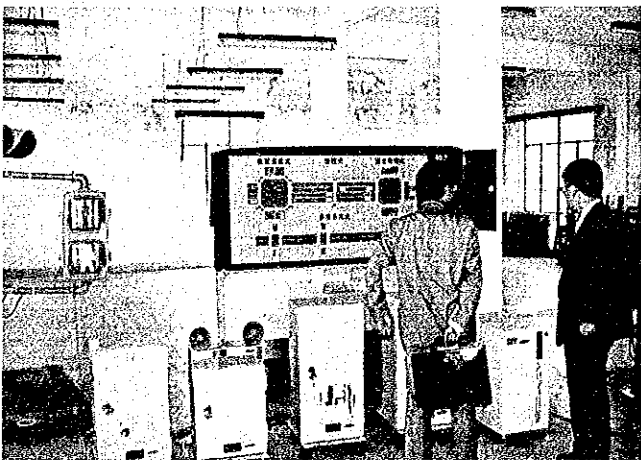
▲ 議事錄署名



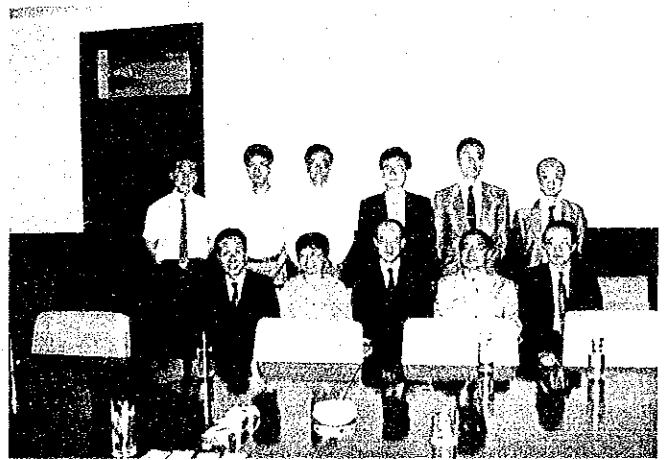
▲ 供与機材の車検設備



▲ 機材引渡し式



▲ 供与機材の信号システム



▲ 調査団及び専門家





# 目 次

序 文

写 真

1. 巡回指導調査団の派遣について .....	1
1-1 派遣の経緯と目的 .....	1
1-2 調査団の構成 .....	1
1-3 派遣期間及び日程 .....	2
1-4 主要面談者リスト .....	2
2. 調査・協議結果概要 .....	4
2-1 プロジェクトの現状 .....	4
2-2 協議内容と結果 .....	7
2-3 総 括 .....	8
別添1. カウンターパート名簿 .....	9
別添2. 第2回日中合同委員会出席者名簿 .....	10
別添3. 第2回合同委員会議事次第 .....	11
別添4. 中国道路交通管理幹部訓練センター1年間の活動総括 .....	12
別添5. 1990年度事業総括 .....	19
別添6. 1991年度事業計画 .....	21
附 属 資 料	
中国道路交通管理幹部訓練センターのための技術協力に関する協議覚書 .....	27



## 1. 調査団の派遣について

### 1-1 派遣の経緯と目的

本プロジェクトは、中華人民共和国（以下「中国」という）公安部が中国の道路交通管理の近代化を進めるため、江蘇省無錫市に設置した「中国道路交通管理幹部訓練センター」（以下「訓練センター」という）において、交通管理に係る幹部の訓練を行い、同国における交通管理の技術向上を図るため、我が国に技術協力を求めてきたものである。

これに対し、我が国では、国際協力事業団（以下「JICA」という）ベースのプロジェクト方式による技術協力を検討し、中国側の要請背景、要請内容の確認、調査を目的とした予備調査団が昭和62年2月22日から同年3月3日までの10日間、中国に派遣された。

この後、予備調査団の調査結果に基づき、日本側の協力可能範囲の大枠が検討され、プロジェクト方式による技術協力を開始するために必要な事項の協議及び関連事項の調査を目的とした事前調査団が昭和62年11月19日から同年12月5日までの17日間、同国に派遣された。

さらに、技術協力の大枠を定める討議議事録（R/D：Record of Discussion）締結のための下準備として日中双方の考え方に大きな隔たりのある供与機材の内容について調整を行い、併せて、R/Dの日本側素案について中国側の意見を聴取するため、長期調査員チームが昭和63年7月26日から同年8月7日までの13日間、同国に派遣された。

これら3度にわたる調査結果を踏まえ、実施協議調査団が昭和63年11月4日から13日まで派遣され、本プロジェクトの協力実施につき中国側と最終協議を行い、討議議事録（R/D）に署名を行い、本プロジェクトが開始されたものである。

今回の巡回指導調査団は、この間の経緯を踏まえ、協力進捗状況の確認と問題点の整理・検討を行うことを目的として派遣したものである。

### 1-2 調査団の構成

団員	賀米 敏 (総括)	警察庁長官官房審議官（交通局担当）
団員	岡崎 征 (機材供与計画)	警察庁交通局交通規制課交通管制官 中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクト国内委員会委員長
団員	榊田 好一 (研修計画)	警察庁交通局交通企画課課長補佐
団員	飯塚 紀史 (車両管理計画)	運輸省地域交通局陸上安全部自動車整備課補佐官
団員	山浦 信幸 (協力計画)	国際協力事業団社会開発協力部社会開発第一課課長代理

### 1-3 派遣期間及び日程

平成3年6月20日から6月29日まで下記の日程で調査と協議を行った。

日順	月日(曜日)	日 程
1	6月20日(木)	成田発、北京着(JL781) JICA中国事務所(報告と打合せ)
2	21日(金)	日本大使館表敬訪問(荒公使、藤本書記官) 国家科学技術委員会表敬訪問 公安部表敬訪問
3	22日(土)	北京交通情勢視察
4	23日(日)	北京発、無錫着 現地専門家との打合せ
5	24日(月)	日程打合せ 派遣専門家に対する調査と指導 交通管制システム関係視察 自動車検査設備引渡し式参加
6	25日(火)	第2回合同委員会への出席
7	26日(水)	第2回合同委員会への出席 協議覚書作成
8	27日(木)	協議覚書作成 協議覚書に署名 団長主催夕食会
9	28日(金)	無錫発、上海着 日本国上海総領事館表敬訪問(蓮見総領事、山口領事) 上海市交通情勢視察
10	29日(土)	帰国準備 上海発(JL792) 成田着

### 1-4 主要面談者リスト

#### 1. 中国公安部

交通管理局長	張 正 常
センター主任	方 善 慶
外事局アジア・アフリカ処長	時 恵 民

2. 国家科学技术委员会

日本 処 長

張 慧 春  
干 建 軍  
陳 大 雄  
劉 曉 東

3. 在北京日本大使館

公 使

書 記 官

〃

荒 義 尚  
志 村 格  
藤 本 直 也

4. 道路交通管理幹部訓練センター

主 任

副 主 任

弁公室主任

方 善 慶  
許 抗 勝  
管 國 忠

5. 無錫市公安局

交通警察支隊長

〃 副支隊長

周 光 岳  
沈 成 林

6. 在上海日本總領事館

總 領 事

蓮 見 義 博  
山 口 領 事

7. JICA 中国事務所

所 長

次 長

三 浦 敬 一  
松 谷 広 志

## 2. 調査・協議結果概要

### 2-1 プロジェクトの現状

ア. カウンターパート配置状況

R/D記載のとおり、16名のカウンターパートが配置されている（別添1.参照）

イ. 機材活用状況

	資 機 材 名	活 用 状 況
供 与 機 材	複写機（ゼロックス） 2台	日本側、中国側の一般事務用及びカウンターパートの研究報告書、視察報告書、講義資料作成に常時使用。
	中国語ワードプロセッサ（ダスコム） 6台	日本側、中国側の一般事務用及びカウンターパートの研究報告書、講義資料作成に常時使用。
	自動車（トヨタランドクルーザー9人乗り） 1台	カウンターパート、専門家、中国国内研修生の市内、近郊都市への交通調査及び視察団、短期専門家の送迎用として常時使用。
	交通信号模擬装置 1式	カウンターパート、中国国内研修生及び視察団に対し、信号制御機の種類、信号制御の概要と3要素、信号制御機の取扱い講習に常時使用。
購 送 機 材	事務用機材（日本語ワープロ、中国語ワープロ、その他）	日本側、中国側の一般事務用及びカウンターパートの研究報告書、視察報告書、講義資料作成に常時使用。
	視聴覚機材（ビデオデッキモニターセット、ビデオカメラセット、スライド投映機、OHP、その他）	長期・短期専門家の講義用、カウンターパートの講義用、中国国内研修生及び視察団に対する講義、広報用に活用。また、カウンターパート、専門家による交通視察時の記録用として活用。
	交通調査用機材（数取り器、スティックメジャー、その他）	カウンターパート及び中国国内研修生の交通調査実習用及び交通管制システム基礎データ調査用として活用。
	交通指導取締り用機材（セイフティコーン、巻尺、トランシーバー、飲酒感知機、発動発電機、ヘルメット、その他）	カウンターパート及び中国国内研修生の交通指導取締り実習用として活用。
	運転者管理用機材（反応試験機、視力検査器、その他）	カウンターパート及び中国国内研修生の運転管理実習用として活用。

小型テープレコーダー	カウンターパートの日本語学習用及び会議等の収録用として活用。
標線機(小型ラインマーカー)	カウンターパート及び中国国内研修生の標線、チャンネルリゼーションの実習用として活用。
図書	長期・短期専門家の業務用及び講義参考書として活用。カウンターパートの参考書として活用。

ウ. 専門家活動状況及び技術移転状況

	内 容
1	第1回合同委員会の開催(1990.5.22～6.1)
2	<p>短期専門家による講義</p> <p>① 交通事故捜査・指導取締りチーム(1990.3.23～4.19) 交通事故捜査に関する法律、事故捜査、事故鑑識、運転者の過失責任、反則金制度導入の経緯と運転者管理について、カウンターパートに技術移転を行った。</p> <p>② 交通工学チーム(1990.6.5～7.3) 交通工学全般(交通流理論、交通調査概論、交通安全と円滑、交通信号理論、交通情報、交通公害、交通計画、交通事故、運転者理論)について、カウンターパートに技術移転を行った。</p> <p>③ 運転者管理チーム(1990.11.17～12.7) 運転適性理論、運転免許制度、運転者免許試験、指定教習所制度、点数制度について、カウンターパートに技術移転を行った。</p> <p>④ 車両管理チーム(1991.3.13～3.24) 型式認定制度、定期点検整備と分解整備、公害規制基準、自動車整備事業、登録制度、保安基準、自動車整備士、自動車整備機械器具について、カウンターパートに技術移転を行った。</p> <p>(参考)</p> <p>① 交通管制調査設計チーム(1991.4.6～4.13 長期専門家参加) 1991年度供与機材の交通管制システムについて、最終的調査をカウンターパートと共に実施し、交通管制システム設計のためのデータをまとめ、交通管制システム構築について、カウンターパートに技術移転を行った。</p> <p>② 車検設備・操作指導チーム(1991.5.9～6.11 長期専門家参加) 1990年度供与機材の車検設備工事及び調整操作について、カウンターパートに技術移転を行った。</p>
3	<p>中国における交通管制システム必要都市の調査実施(1990.5.17～1991.1.13 長期専門家)</p> <p>中国は、現在、計画経済と市場経済を組み合わせた結合経済による経済発展を目指している(季瑞環政治局員声明)。経済発展は、先進国の例でも明らかなように、流通の発達を要求し、その担い手である陸上運輸問題を解決することは、重要な課題である。しかし、中国における道路交通管理は、その整備途上にあり、経済社会の要求による車社会の急速な発展は、都市内及び都市間に様々な交通問題を発生させている。交通問題の主なものは、次のとおりである。</p>

- (1) 交通事故による死傷者の発生及び経済的損失
- (2) 交通渋滞による経済的損失・大気汚染及び騒音公害
- (3) 流通の高度化及び経済成長の阻害

当調査の第1の目的は、中国国内の代表的都市を選択し、交通調査を実施し、主として都市内交通高度化のための交通管制システム及び連動制御システムの必要性・導入上の問題点及びシステム規模等について調査し、併せて各都市の交通警察官から、交通事情、交通対策、交通広報及び政策実施上の困難点などを聴取する。以上の交通調査にカウンターパート6名を参画させ、調査データを考察し、交通管制システム及び連動制御システムの導入プロセスをカウンターパートに技術移転することである。

第2の目的は、現在の中国国内の交通問題を認識するとともに、「中国における交通管制システム必要都市の調査実施」報告書及び当訓練センターで開講される「交通警察官幹部訓練コース」に使用する交通問題対策用教材を作成することである。

※ 調査対象都市

- (1) 蘇州      (2) ハルピン      (3) 寧波      (4) 西安
- (5) 済南      (6) 武漢      (7) 福州

※ 調査結果については、平成3年3月3日発行「中国における交通管制システム必要都市の調査実施」参照。

4	<p>広州、深圳交通情勢視察（1991. 3. 4～3. 9長期専門家）</p> <p>長期専門家及びカウンターパート2名は現在の中国の都市交通問題を解決するために、交通情勢を視察した。</p>
5	<p>「第3回日中交通管理シンポジウム」聴講（1990. 10. 29～11. 3長期専門家）</p> <p>長期専門家は、現在の中国の抱える交通問題を理解するため、北京市で行われ「日中交通管理シンポジウム」に聴講参加した。</p>
6	<p>上海車両管理所視察（1990. 8. 21長期専門家）</p> <p>長期専門家は、上海車両管理所の車検設備を視察し、同行のカウンターパート2名及び車検設備工事担当技術者3名に対し、車検設備工事の概要、工事の問題点等を共に考察し、車検設備工事に関し技術移転を行った。</p>
7	<p>供与機材及び専門家購送機材に関する調査、打合せ、取付け及び設置工事について、カウンターパート等に技術移転を行った。（長期専門家）</p> <p>(1) ドライビングトレーナー</p> <p>北京市郊外にあるトヨタ自動車学校のドライビングトレーナー室を視察し、必要性、機能、操作方法等について、カウンターパート1名に技術移転を行った。</p> <p>(2) 自動車検査設備</p> <p>1990年度供与機材の自動車検査設備工事及び操作について、カウンターパート7名及び車検設備工事担当技術者5名に技術移転を行った。</p> <p>(3) 交通管制システム</p> <p>1991年度供与機材の交通管制システム（中央装置、信号端末制御機、車両感知機、交通監視テレビ装置、交通情報板等）の個別実際の調査及び交通管制システム現場工事設計について、カウンターパート3名及び中央、端末工事担</p>



	<p>当技術者 5 名に技術移転を行った。</p> <p>(4) 交通信号模擬装置 交通信号模擬装置の設置、機能、取扱い方法及び設定変更等について、カウンターパート 16 名及び中国国内研修生等 30 名に技術移転を行った。</p> <p>(5) 標線機（小型ラインマーカー） 専門家の購送機材である標線機の機能、取扱い及び保守方法について、カウンターパート 10 名及び担当者 10 名に技術移転を行った。</p>
8	<p>無錫市の交通問題に関する討論会の実施（1990. 8. 14～12. 8 長期専門家） 長期専門家、カウンターパート及びオブザーバーは、交通環境の早急な改善を要し、かつ、プロジェクトの所在地である無錫市の交通問題を議題として、7 回にわたり討論会を開催した。</p>

## 2-2 協議内容と結果

ア. 本会談に先立ち、予備会談が 6 月 24 日（月）に開催され、

- ・メンバーの紹介（別添 2. 参照）
- ・協議日程及び議事次第の打合せ（別添 3. 参照）

が実施された。

イ. 本会談は、6 月 25 日（火）、6 月 26 日（水）の両日にわたって実施された。

協議に先立ち、中国側を代表して方 善慶氏、日本側を代表して賀来 敏氏が、それぞれ挨拶を行った。

また、協議終了に際して、中国側から時 惠民氏及び沈 成林氏の 2 氏が、日本側から松谷広志氏が、それぞれ挨拶を行うとともに、方 善慶氏が閉会の挨拶を行った。

ウ. 会談では、まず、中国側は許 抗勝氏が（別添 4. 参照）、日本側は倍憲一氏が、1990 年度事業総括報告（別添 5. 参照）及び 1991 年度事業計画報告（別添 6. 参照）を行った。

エ. 協議では、日本側から 6 点の提議が行われ、また、中国側から 10 点の提議が行われた。これらの事項について、友好的な雰囲気のもとに討議が行われ、その結果は、附属資料のとおり、「中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクトのための技術協力に関する協議覚書」としてとりまとめられ、6 月 27 日（木）、日本側代表・賀来 敏氏、中国側代表・方 善慶氏によって、協議覚書に署名がなされた。

協議覚書の詳細は、附属資料のとおりであるが、主な内容は次のとおりである。

(ア) カウンターパートによる教育訓練コースの実施関係

日本側から、本年度から技術移転と並行して、中国側による教育訓練コースを開設し、カウンターパート自らが教壇に立ち、教官としての資質を高める訓練を実施するよう要望したことに対し、中国側から 1991 年中に交通工学と高速道路交通管理の 2 コースを開設する旨回答がなされた。

(イ) 本年度供与予定の交通管制システムの受入れ準備関係

日本側から、短期専門家を派遣する予定もあるので、受入れ準備の進行管理を確実に行うよう要望したところ、中国側から受入れ準備を2月までに完了させる予定である旨の回答と、短期専門家の派遣は3月が望ましい旨の要望があった。

(ロ) 車検棟の管理運営体制の整備関係

日本側から、施設の適正な運用を図るための管理規則制度と同施設を利用する検査マニュアル・研修計画の策定の促進を要望した。

中国側から、自動車検査設備については、教育用機能とそれ以外の多方面の機能を発揮させたいと考えているが、後者については、関係当局との交渉が必要で、まだ検討中の段階にあり、具体的な利用計画と使用問題については、次の段階で詳細な検討と討論をする旨回答があった。

さらに、日本側から、自動車検査設備供与後、当該施設が放置されることは望ましくないので、できる限り早く利用計画を作成するよう要望したところ、中国側から、できる限り早く利用計画を作る旨回答があった。

### 2-3 総括

中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクトについては、1988年11月10日に日中双方の代表者が討議議事録に署名して以来、約2年半が経過し、本プロジェクトの協力期間（5年間）のちょうど半分が経過したところである。

巡回指導調査団は、正に本プロジェクトの折り返し点という重要な時期に訪中し、プロジェクトの進捗状況等を実際に見聞する機会に恵まれた。巡回指導調査団は、協力中のプロジェクトに関し、技術上または運営上の問題を解明し、派遣専門家及びカウンターパートに対し必要な指導・助言を与える目的で派遣されたものであり、その調査結果の詳細は上記のとおりである。

本プロジェクトは、中国国内情勢等の影響を受け、プロジェクト開始直後から大幅な遅れが出、その先行きが危ぶまれたところであったが、その後、当プロジェクトの運営も何とか軌道に乗り、順調に推移しているところである。

本プロジェクトも、いよいよ後半に入り、技術移転の成果をどのようにあげていくかがポイントになってきている。とりわけ、討議議事録に記された供与資機材については、1991年度供与予定の交通管制システムをもって、そのすべてを完了する予定であるところから、これらの供与資機材を十分に活用して技術移転を効果的に実施していくことが望まれる。

巡回指導調査団の実施結果が、本プロジェクトの円滑な遂行の一助になれば幸いである。

## 別添1. カウンターパート名簿

No	分野	氏名	性別	生年月日	最終学歴	配置年月	備考
1	交通管理	陸 晁 東	男	1964. 1. 31	大 卒	1988. 11	
2	交通管理	曾 一 軍	男	1964. 2. 25	修 士	1989. 1	
3	交通安全	葛 聞 雷	男	1963. 3. 26	修 士	1988. 11	
4	交通安全	戴 鈞 涛	男	1963. 11. 30	短 大	1990. 10	
5	車両管理	尚 煒	男	1957. 8. 26	大 卒	1988. 11	
6	車両管理	金 同 明	男	1960. 6. 6	大 卒	1989. 1	
7	運転者管理	張 仲 仁	男	1946. 12. 9	大 卒	1990. 4	
8	運転者管理	徐 向 陽	男	1965. 5. 4	修 士	1991. 4	
9	交通工学	華 永 紅	男	1965. 3. 19	修 士	1989. 1	
10	交通工学	鄒 永 良	男	1963. 8. 14	大 卒	1990. 10	
11	交通計画	丁 佑 民	男	1960. 12. 7	修 士	1988. 11	
12	交通計画	顧 祝 強	男	1965. 10. 13	大 卒	1991. 3	
13	交通信号	夏 国 喜	男	1961. 9. 24	大 卒	1989. 1	
14	交通信号	馬 慶	男	1964. 2. 4	大 卒	1990. 10	
15	高速道路交通管理	傅 姣	女	1962. 10. 1	大 卒	1990. 4	
16	高速道路交通管理	陳 杲	男	1959. 5. 4	大 卒	1990. 4	

日 本 側		中 国 側	
J I C A 巡回指導調査団団長	賀 来 敏	日中合同委員会委員長代理 中国道路交通管理幹部訓練センター主任 (討議議事録署名者)	方善慶
〃 団員	岡 崎 征	公安部外事局アジア・アフリカ處處長	時惠民
〃 団員	榎 田 好 一	公安部交通管理局科学技術処調研員(処長格)	郭恩德
〃 団員	飯 塚 紀 史	公安部交通管理局宣伝教育処科長	沈志農
〃 団員	山 浦 信 幸	公安部交通管理局科学技術処副科長	孫笑平
J I C A 中国事務所次長	松 谷 広 志	無錫市公安局副局長	周光岳
長期専門家(チーム・リーダー) (討議議事録署名者)	倍 憲 一	中国道路交通管理幹部訓練センター副主任	許抗勝
長期専門家(交通管理)	伊 藤 俊 之	中国道路交通管理幹部訓練センター弁公室主任	管困忠
長期専門家(業務調整)	高 橋 公一郎	中国道路交通管理幹部訓練センターカウンターパート代表	金同明
通訳	胡 啓 明	通訳	周文傑

別添 3. 第 2 回合同委員会議事次第

◎ 6月25日(火)

- |   |                  |             |
|---|------------------|-------------|
| 1 | 開会の挨拶(方善慶委員長代理)  | 09:05~09:10 |
| 2 | 日本側挨拶(賀来 敏調査団長)  | 09:10~09:15 |
| 3 | 1990年度事業総括報告     |             |
|   | 中側:許抗勝(センター副主任)  | 09:15~09:45 |
|   | 日側:倍憲一(チーム・リーダー) | 09:45~10:15 |
|   | 休 憩              | 10:15~10:30 |
| 4 | 1991年度事業計画報告     |             |
|   | 中側:許抗勝(センター副主任)  | 10:30~11:00 |
|   | 日側:倍憲一(チーム・リーダー) | 11:00~11:30 |
| 5 | 協議・懇談            | 14:00~16:30 |

◎ 6月26日(水)

- |   |                          |             |
|---|--------------------------|-------------|
| 6 | 協議・懇談(内容整理、成文)           | 09:00~10:30 |
|   | 休 憩                      | 10:30~10:45 |
| 7 | 関係者挨拶                    |             |
|   | 時惠民(中国公安部外事局アジア・アフリカ処処長) | 10:45~10:55 |
|   | 松谷広志(JICA中国事務所次長)        | 10:55~10:05 |
|   | 周光岳(無錫市公安局副局長)           | 11:05~11:15 |
| 8 | 閉会の挨拶(方委員長代理)            | 11:15~11:30 |
| 9 | 討議議事録署名(チーム・リーダー、中側責任者)  |             |
|   | ※後日署名                    |             |

<注>時間割は暫定であり、実際の進行状況により短縮または延長することとする。

#### 別添 4. 中国道路交通管理幹部訓練センター

1年間の活動総括（1990.5～1991.5）

中国道路交通管理幹部訓練センターは、我が国公安部交通管理局と日本国国際協力事業団（JICA）との間で、1988年11月10日に調印した『実施協議』の協力プロジェクトです。今年には既に3年目に入っており、この計画の実施はずっと順調にはかどっています。昨年5月の第1回合同委員会以来、中日双方のお互いの努力のもとで、このプロジェクトは更に新たな発展をみせました。カウンターパート人員の訓練、教学用機材設備、教学、教務建設及び規則の立て直しと完全化などの緒仕事は『実施協議』の要求に応じてうまく展開されつつあります。私はここで過ぎ去った1年間の計画実施の状況及び初歩的な体得、それに、われわれの仕事に存在している不足や問題点について、次のようにご報告いたします。

##### 1. 1年来、このプロジェクトの実施状況

###### 1. 日本短期専門家の派遣について

前回の合同委員会以来、日本側からまた、交通工程、運転手管理、車両管理、交通信号制御システムにおける現場調査、車両検査ラインの取り付け及び操作指導の5回、計20名の短期専門家が訓練センターに講義あるいは仕事のため派遣されました。これらの専門家の中には、管理政策策定部門の役員もいれば、また、いろいろな経験に富んでいる実際の仕事にたずさわっている交通管理幹部、科学警察研究所の研究者と信号機、車検線メーカーからの技術者もいました。これらの専門家の行われた講義は、その内容が科学的で、理論的にも深くて広いものであります。これを通じ、中国側のカウンターパートとほかの学员は上述した各面における日本の交通管理専門知識と先進的な経験を比較的に全般的に習得できました。これは我が訓練センターにおけるカウンターパートチームの成長、それにカウンターパート人員の専門理論と学術水準の向上には積極的な役割を果たしています。長期・短期専門家たちの学術でのまじめな態度及び工作中的の詳しさから、われわれのカウンターパートと勤務員にとっていろいろな勉強になります。

###### 2. カウンターパート人員日本の研修について

1990年7月14日から8月20日にかけて、第2回4名のカウンターパート人員が36日間日本で研修しました。日本に滞在する間、カウンターパート人員は日本側からの親切な招待を受けました。彼らは講義を受け、ビデオを見、具体的な操作と現場見学などにより、日本における交通管理面の先進的経験と技術に対する理解を深められました。これで自分の目を広くし、自分の知識も増えました。

### 3. カウンターパート人員の国内においての実習及び調査研究状況について

カウンターパート人員に、よりよく我が国の交通実情を理解させるため、また、より相応的に日本の交通管理についての経験や技術を吸収、消化（取り入れ、飲み込み）するため、去年の9月から今年の1月の間に訓練センターが日本長期専門家とカウンターパート人員から成る5つの巡回チームを組成しました。これらのチームはそれぞれ中国国内の代表的な7つの交通実際状況及び特徴や当面の解決必要な急務に対して視察してから、比較的に実際状況に合う視察レポートを出しました。

### 4. カウンターパート人員の日本語などの基本技能の訓練について

日本の交通管理における先進的な技術、経験を吸収、消化する能力を強化するため、技術移転中の言葉の壁を崩すため、今年の1月から1週間、半日の4回、無錫江南大学から日本語の先生にセンターへきて、日本語の訓練をしてもらいました。この日本語の訓練を通じ、カウンターパート人員の日本語レベルが、皆、ある程度の向上が得られました。このほかに、センター側はまた、一部のカウンターパート人員をドライバーのトレーニングに派遣しました。今では、もう7名のカウンターパート人員が運転免許あるいは実習運転免許を持っています。

### 5. カウンターパート人員の日本における交通管理・経験技術の吸収、消化及び応用する状況について

日本における交通管理・経験技術を勉強、吸収、消化することによって、我が国の交通管理業務に奉仕するのは、このプロジェクトの主な目標と任務であり、また、我が訓練センターにおける仕事の指導方針でもあります。この目標をよりよく実施し、この任務をよりよく完成させるために、われわれは上述の交通管理の第一線へ考察、実習に行かせることをしたばかりでなく、また、カウンターパート人員には実際と結び付けて応用できる条件も作りました。例えば、我が国の『運転手管理条例』の案づくりにおいて、我が国における交通事故賠償法の研究の時、また、我が国の高速道路で起こった事故についての処理と緊急救護対策などの指導的な書類や、その業務条目を検討する時、われわれはこれらの実務にそれぞれのカウンターパート人員を参加させ、日本の専門家から習得した専門知識を持って、よく、我が国の交通管理業務に使わせるのです。一方、カウンターパート人員は積極的に講義の準備をして、今年の各半期に2つの交通警察官幹部訓練班（クラス）を設ける予定です。カウンターパート人員がこの訓練クラスで『交通工学』、『高速道路交通管理』などの講義を行うのです。

### 6. 日本側から提供された資料の翻訳、整理について

今まで訓練センターでは、16種類計50万字の短期専門家の講義資料を翻訳、印刷しま

した。それに計10万字の本格的なテキスト『運転手対策』を翻訳、印刷しました。それから日本側からの数学会ビデオソフトを5本訳し中国語にふきかえしました。上述の資料は、日本の交通管理技術の押し広げ、また、訓練センターの知名度の向上、訓練教材の充実などの面で、みな良い役目を果たしたのです。今、われわれは、いかにこれらの教材、資料をより良く役立たせるかについて考えているところです。

#### 7. 日本からの援助機材の受入れ状況について

このプロジェクトの『R/D』協議により、日本側が訓練センターに11種類の設備と機材を提供するのです。自動車安全検査設備、線掛け車、交通信号模擬設備、交通調査用車両などの19種56台(体)、それに、日本専門家が来る度に携帯してきた交通調査用機材、ルール違反取り締まり用機材107種の371台(件)、それにエアコン、ビデオ、プレーヤー、ロッカーなどの中国現地で購入した機材35種52台、日本文書籍323冊、中国文書籍337冊、数学会ビデオ・ソフト、また映画66本、これらの機材や書籍などは今までに既に訓練センターに入っております。これらは訓練センターの教学中に重要な役割を果たしています。

#### 8. 自動車安全検査設備の据付け及び調整について

自動車検査設備の据付けに併せて、中国側が513m<sup>2</sup>の車検棟工程を完成しました。この上、専門者を出して日本の専門家と一緒に設備の据付け、調整などの作業を完成しました。中国側は車検ラインのための基礎(土台)建設に50万の人民元、設備の取付けに3万人民元を使いました。今では、なお一部の配合工程(道路と通風系統)が残されています。

#### 9. 交通管制システム設備の配合工程の準備作業について

交通管制システム設備はこのプロジェクトの中で、中日双方の提供した一番価格の高い設備で、合計3億1千万日本円(注、実際は約4億円)になっています。この設備の取付け、整正がスムーズに進むため、この設備を一番よい教学と社会の効果を発揮させるため、中国側は訓練センター無錫市政府及び無錫市計画委員会、建設委員会、無錫市交通警察支隊などの業務部門からの代表が参加した『工程協調組』を立てまして、統一指導、協調配合工程の項目を出し、施工などを統一指導しています。無錫市副市長の華林がこの組の組長を担当しています。中国からの工程配合資金は4百万人民元で、91年3月までにもう『管制センター』の主工程が一応完成されました。今年の10月までに建築内部の工事が終わることができる見通しで一部の交叉点と道は、いま工程要求に応じて改造されています。

今年の4月6日から12日まで、日本短期専門家と中国技術者は現場で有線テレビ撮影機、信号制御機、電光情報板、車両検知器などの据付け位置、通信線方向、及び管制センターの設備の取付けなどに対し詳細な調査を行い技術約束もしました。



## II 1年来、このプロジェクト業務からの幾つかの体得

上述の状況からみれば、このプロジェクトは1年来の業務量がとても多くて、任務も相当重いとのことがわかります。カウンターパート人員の訓練も教学用機材、設備などの提供も既に計画あるいは案の段階から実際の段階に移り、そしてその進展もうまくいっています。何故かといいますと、また、何の体験があるかを次の幾つかの初歩的な体得が総括できるからです。

1. 中日双方が工作中、相互尊重、相互信頼、相互支持、相互理解に基づくことはこのプロジェクト発展の建前です。このプロジェクトはその協力内容が多くて、また、すべてが新規な項目で日常の業務が多くて重いうえ、双方にはこの面の成熟な経験がない。一方、仕事制度、方法も同じでないから仕事からは、よく、これやあれやの困難と問題が出ました。それにもかかわらず双方が上述の『四互』（相互尊重、相互信頼、相互支持、相互理解）の精神で、これらの困難と問題が円満にすぐに解決されてしまいます。上述の建前から出発し、われわれは今までに、もう、多階級の意見交換、情報交流、相互協商の仕事制度と方法を立てました。

a) 1週間に一度の定例会議、一般的な日常仕事は定例会議によって情報の交流、相互協商を行います。例えば、定例会議で、双方が先週の仕事状況を交流し、完成できなかった困難な仕事については、その説明をし、そして改善の措置を出します。同時に、来たる1週間の仕事に対し、スケジュールを作り出します。定例会議の状況は一応まとめられて、上段に報告されています。今まで、訓練センターでは、もう100回の定例会議が行われたのです。

b) 重要な状況、問題については関係者の間で即時通報、即時協議、そのうえ、各自の上司に報告し、反映します。

c) プロジェクトの指導思想や、その発展問題などに関しましては、双方の指導部側での意見交換あるいは上へ報告か、下へ伝えるかとのこれらの制度、方法を通じ、これは訓練センターの仕事が順調に進められることを保証したばかりでなく、双方の相互理解と相互友好を深くしました。

私たちは日本の短期専門家と付き合っている中で、仕事に対しては、みんなは非常にまじめで、問題あれば互いにその解決方法を考え、困難があれば互いにその対策を考え、われわれの工作能率がずいぶん高いと言えましょう。アマチュアの時間、われわれはしょっちゅう話し合ったり、歌を歌ったり、踊りをしたりします。このほかに、見学参観などの活動も設けます。われわれの間にただよう雰囲気は、和やかで友好的です。われわれの間の交誼は、このプロジェクトの発展に従って日増しに深くなってきます。このプロジェクトの意義が長いものだと言えても、われわれ双方の間に存在するこのような友好から出さ

れた影響はもっと深くて長いものになります。前任の長期専門家チームのリーダー平山先生が離任して帰国する前に訓練センターに贈った100本の桜の木は、時間的にはそんなに長くなくても、今そのどれもが丈夫に育てられているのです。これも、われわれのこのプロジェクトが順調的に発展するシンボルであることだといえるでしょう。新任の長期専門チームリーダーの倍先生はプロジェクト建設に対し、いろいろな考え方と提案を出してくださいましたから、私たちは倍リーダーと一緒にもっと深く検討と実施しようと思います。

我が国の実情から中国実際の交通状況に応じるそれぞれの階級の教材や、教話法、制度は私たちの訓練センターを建設する指導思想となっています。また、日本の交通管理技術と先進的な経験を取り入れ、飲み込むことに力を入れるのも、私たち訓練センターにおけるカウンターパート人員の基本的な方向であります。ところで、日本の短期専門家の講義を受けると日本へ短期研修、観察に行くほか、われわれは何回もカウンターパート人員を無錫などの交通管理の前線へ実習、訓練、調査研究に行かせ、それに長期専門家の指導のもとで、国内の代表的な都会へ交通考察に行かせました。現場の実習と長期専門家の指導で、カウンターパート人員は教室で習得できない知識を得ました。

これは、中国交通現状に対する認識を深めるだけでなく、また、日本の交通管理技術と先進的な経験に対する理解をも深めました。これで、問題の分析力と解決力の向上にも役に立ちます。これと同時に日本の専門家たちは中国の交通実情を理解したうえで、技術移転をもっと適切化にさせることができます。われわれは、こんな理論的なものを実際を結び付けて行われた教育方法は、先進技術の消化、吸収、創造する有効なルートであり、また、カウンターパート人員の専門資質の有効方法の1つでもあります。このほかに、われわれは今年から各種の交通管理専門の訓練クラスを設けることを決めました。主にカウンターパートがその講義を担当する。この『実践』的な方法でカウンターパートの消化、吸収、及び講義の能力の向上を助成します。

2. R/D協議の要求に従って、勤務員の充実、規則制度の完全運営メカニズム活性化の強化などは、みな、訓練センターにおける各業務の展開が順調か否かの重要な条件です。去年の1年間、訓練センターには6名のカウンターパートが増加しました。これで一応8専門の合計16名のカウンターパートが揃ったのです。同時に事務員、総務管理の力も強化しました。目下センターでは、基本上、仕事の区分がはっきり、任務がそれぞれの担当者有。

ここで、ちょっと触れる甲斐があるのは、センターの人員は仕事の中で互いに団結、支持、ある面の責任者が出張か仕事が忙しい時に、ほかの人員が進んでその仕事を担当、互相援助できるかぎり仕事がうまく進められるように努力したことです。これ以外われわれは、また機材、書籍の貸し出し、設備の使用などに関連する規則と制度を立て、設備、書籍の有効的な利用の条件を作りしました。今、われわれは、条件により時間的に分けて日本

から提供された一部の教学機材、設備を我が国の実情と結び付けて開発するつもりです。これでこれらの機材と設備を中国各省・市へ広げます。その役目を果たします。

3. 積極的に上程して報告をする、あるいはその指示を聞くのはセンターの仕事が順調に展開される根本的な保証であります。

このプロジェクトが実施されて以来、指導思想から具体的な困難な問題の解決は、いつも国家科学技術委員会、公安部、江蘇省、無錫市政府並びに各関係部門からの指示、支援によるところが大きいです。われわれのプロジェクトは、外事接待の任務が非常に多くて、去年1年間だけでもセンターに来られた海外の来客が7回、延べ26人もあり、それに通関する教学用機材・設備などもあり、外事面の申請と批准の手続きがとても多いからです。

しかし、これでも上述の関係部門から大いに支持され、手続きがいつも順調に済みました。これ以外の一部重大な外事活動には各級指導者もいつも関心を寄せています。例えば平山リーダーと倍リーダーとの仕事交代にあたって、公安部、国家科学技術委員会の指導者は、みな、2人のリーダーと会見をし、それにリーダーの仕事が高く評価しました。これは上役部門のこのプロジェクトに対する関心を示しています。短期専門家がセンターに来られた際、ほとんどが北京、上海、蘇州、無錫などの都市へ交通視察に行きましたが、これらの地元の公安局、交通警察支隊の責任者は、いつも親切に応待、支持してくれました。去年長期専門家とカウンターパート人員が済南、武漢、ハルビンなどの都市へ交通調査へ行ったときもそれぞれ地元の交通警察部門の親切な応待を受けました。

### Ⅲ われわれの仕事の中に存在する不足や幾つかの解決すべき問題

訓練センターは、新しく出来た機関なので、1枚紙、1寸の土地、1人の人間から発足してきました。もちろん、今では内部の設備、人員の配置、基礎施設、及び業務経費の源などの建設、それに、任務を受けること、また、各項目のこの発展要求などの間に適切でないことが、まだ多いです。例えば、人員配置のことで公安部に批准された任務書によれば、訓練センターに定員が40人必要ですが、今まで、ただ29人しかいません（うち12人が2職以上兼ねています）。特に、センターの教務、教育の行政人員は、去年1年間公安部責任者の支持したもので2人増加しました。これにもかかわらず、任務の要求に、まだまだ適当ではありません。人員の採用には、条件と希望との矛盾があるのは事実です。われわれは人の採用には条件がついているのです。条件に合わない人は要りません。条件に合えばその本人あるいは向こうの勤め先が希望がなければ、やはり要りません。条件にも合い、本人また、その勤め先が希望もある人間なら、ほんとうに捜がしたいです。訓練センターの内部運営メカニズムには、不適當なところもあります。これは、次第に調整、改善されなければなりません。これらの問題と不足は、公安部の指導者の関心及び支持によりセンターの全員の努力により

きっと早く妥当的に改善、解決されることができると信じています。われわれのプロジェクトは、新しい1年にきっと、よりよく順調に前へ前へと発展していくに違いありません。  
どうもありがとうございました。

(おわり)

## 別添資料 5. 1990（平成2）年度事業総括

プロジェクト運営を「確かな軌道に乗せ、しかも、定着させる年」と位置付けた1990（平成2）年度は、予定の実施計画の100%を達成、初年度・2年度のトータルで、全体の、機材供与は83%、長期専門家派遣は45%、短期専門家派遣は44%、カウンターパート訪日研修は50%、をそれぞれ消化することができました。

これもひとえに、訓練センターをはじめ、日中両国政府及び関係者の皆様並びにJICA、日本国大使館、駐上海日本国総領事館の皆様方の温かいご指導ご協力によるものと、まずもって、心からお礼申し上げます。

それでは、順を追ってご報告申し上げます。

### 1. 長期専門家関係

先に、任期を終えて帰国いたしました平山益實リーダー及び引き続き在勤する2名の専門家は、この1年間健康に恵まれ、日本の四季に酷似する、すばらしい無錫の自然環境と、さらに加えて、満足すべき、行き届いた訓練センター側のご配慮及びご努力を得て、専心、業務の推進にあたり、日中友好の実をあげてきたところであります。

### 2. 短期専門家関係

#### (1) 交通事故捜査専門家（交通指導・取締りコース第2班）の派遣

4/3～4/19の17日間、交通事故捜査短期専門家3名が派遣され、カウンターパート11名に対し、技術移転のための講義が行われました。

#### (2) 交通工学専門家の派遣

6/5～6/21、6/23～7/9の34日間、交通工学短期専門家5名が派遣され、カウンターパート11名に対し、技術移転のための講義が行われました。

#### (3) 運転者管理専門家の派遣

11/17～12/7の21日間、運転者管理短期専門家5名が派遣され、カウンターパート14名に対し、技術移転のための講義が行われました。

#### (4) 車両管理専門家の派遣

1991（平成3）年3/13～3/24の12日間、車両管理専門家4名が派遣され、カウンターパート15名に対し、技術移転のための講義が行われました。

#### (5) 自動車検査設備据付け・操作指導専門家の派遣

1991（平成3）年5/9～6/11の34日間、自動車検査設備据付け・操作指導専門家2名が派遣され、カウンターパート5名及び担当職員6名に対し、技術移転のための講習が行われました。

### 3. カウンターパート関係

(1) 前年の平成元年度末(1990年3月)におけるカウンターパートは8名でありましたが、年度内に7名が補充され、計15名となり、技術移転のための講習を受けました。

#### (2) 訪日研修

7/10～8/14の35日間、カウンターパート4名が訪日、憧れの日本での研修を受け、多くの収穫を得て、帰国いたしました。

〔金同明、華永紅、丁佑民、夏国喜〕

### 4. 供与機材関係

期間中に供与された主な機材は、次のとおりであります。

#### (1) 交通管制システム 1式

当プロジェクトの最大機材で、現在国内で製造中。搬入は1992(平成4)年の2月の予定であります。

(2) 車両2台(調査実習用ランドクルーザー、中型バス各1台)現地引渡しを終了いたしました。

### 5. 教材関係

(1) 『運転者対策』の現地語教科書を3,000部作成いたしました。

(2) 教材ビデオ6本を現地語に吹き替えました。

### 6. その他

期間中に「中国における交通管制システム主要都市の調査」を実施し、平山、伊藤両専門家がこれに当たり、カウンターパート1名が同行いたしました。対象都市は、蘇州、ハルビン、寧波、西安、済南、武漢、福州の7都市で、調査結果は報告書としてまとめ、関係機関へそれぞれ報告いたしました。

簡単ではございますが、以上で事業総括を終らせていただきます。

## 別添資料 6. 1991（平成3）年度事業計画

次に、1991（平成3）年度の事業計画をご報告申し上げます。

日本に、「五合目こそ出発点」という味わい深いことばがあります。本年は、我がプロジェクトが、「折返し地点」つまり、「五合目」に差しかけます。

この2年間を振り返ってみますと、必ずしも、平坦な道ばかりではありませんでした。言語、風俗、風土、食生活等の文化や価値観が相異なる、いわゆる異文化同士の触れ合いでありますから、当然、ボタンのかけ違えが出てまいります。しかし、それらが、大きな摩擦やトラブルに発展することなく、真の友人として、同じ志を持つ人間同士としての温かい友情が育ちましたことは、我がプロジェクトチームと訓練センター側両者の英知と相互理解があったからだと思うのです。

この貴重な経験と実績とを基盤に、新年度のスタートに際して、私ども長期専門家が、特に心しなければならないことがあります。

それは、私どもは、いつも、若いカウンターパートに接している環境の自覚であります。

この優秀なカウンターパートたちは、学歴が高く、使命感に燃え、研究心も極めて旺盛、しかも、優れた行動力も持っております。

彼らは、常に、私どもから、1つでも2つでも、日本の新しい道路交通管理技術を学ぼうと、意欲と希望に満ち溢れています。

何気ない私どもの一挙手一投足、あるいは一言半句にも、大きな関心を注いでおります。このような、ナイーブで、ひたむきなカウンターパートを擁するプロジェクトは、必ずや成功し、所期の目的を達成することができるものと信じて疑いません。

しかも、その成功に、付加価値を与えなければなりません。そのためには、私ども長期専門家自身が、なお一層の「自己研鑽」、「相互啓発」に努め、国際感覚的バランスの上に立って、彼らに接触しなければ……と、改めて自戒いたしているところであります。若い優秀な人材の育成に、手を貸してあげることも、JICAの基本的使命の1つであるからであります。

以上の視点に立って、本年度は、次の計画を推進していく所存であります。

### 1. 長期専門家関係

(1) チーム・リーダーは、平山益實から倍 憲一へ交代いたしました。

倍 憲一リーダーの任期は、1991（平成3）年4月13日～1993（平成5）年4月12日までであります。

(2) 高橋公一郎調整員は、1992（平成4）年1月21日に任期満了、帰国いたします。これに伴い、後任調整員が派遣されることとなります。

## 2. 短期専門家関係

今年度の短期専門家は、5分野21名予定されております。

### (1) 交通管制システム詳細設計指導

1名、4月、1週間

### (2) 交通規制

5名、7/6～8/10、3週間/名、2班編成

### (3) 高速道路交通管理

5名、9月、4週間

### (4) 交通管制システム据付け・操作指導

5名、1992(平成4)年1～2月、6週間

### (5) 交通管制

5名、1992(平成4)年3月、4週間

## 3. カウンターパート関係

カウンターパートが最大の関心と期待を持つ日本への招致研修は、4名、10～11月、35日間を予定しております。

特に本年度は、日本語のマスターに最大の努力を払うことにいたしております。派遣予定者は、張仲仁、馬慶、陳杲、傅姣の4名であります。

## 4. 供与機材関係

供与機材は、本年度分を以って当初計画が終了します。本年度供与される主な機材は、以下のとおりです。(詳細は別添資料参照)

### (1) 教材作成機器

① パーソナルコンピューター及びソフト	5式(現地調達予定)
② 日本語ワープロ	1式
③ 中国語ワープロ	4式(現地調達予定)
④ 電動タイプライター	1台
⑤ 印刷機	2台
⑥ 製本機	1台
⑦ 卓上電子計算機	2台

### (2) 視聴覚機材

① OHP及びスクリーン	2台
② スライドプロジェクター	2台
③ ビデオセット	1式
④ 16ミリ映写機	1台



⑤ 実物投影機	1 台
⑥ テープレコーダー	6 台
(3) 指導取締り用機材	
① レーダースピードメーター	1 式
② アルコール検知器	10 個
③ アルコール感知器	5 個
④ 騒音計	1 個
⑤ 自動車重量測定装置	1 式
⑥ 検問用機材	1 式
(4) 調査自習用車両	
① ステーションワゴン型車両	1 台
② ボンゴ型車両	1 台
③ 工事用バケット付きトラック型車両	1 台
④ オートバイ	2 台
(5) 交通調査用機材	
① 交通量計測器	8 個
② 数取り器	50 個
③ 自動車走行測定装置	1 個
④ 携帯用路面滑り計	1 個
⑤ 加速度計	1 個
⑥ 震動計	1 個
⑦ デジタルメジャー	1 個
⑧ 間隔測定桿	1 個
⑨ 調査用ビデオデッキ・カメラ	1 式
⑩ カメラ	4 個
⑪ メガホン	2 個
⑫ トランシーバー	4 個 (現地調達予定)
⑬ ストップウォッチ	10 個
⑭ 発動発電機	2 台
(6) 適性試験機器	
① 視覚検査装置	1 個
② 電動式深視力計	1 個
③ 動体視力検査装置	1 個

④ 視野計	1 個
⑤ 速度見越し反応装置	1 個
⑥ 重複作業反応検査器	1 個
⑦ 処置判断検査器	1 個
⑧ 夜間視力検査器	1 個
(7) ドライビングトレーナー	1 式
(8) 交通関係図書	120 冊
(9) 交通関係ビデオ	50 巻

## 5. 調査団派遣

12月、計画打合せ調査団または中間評価調査団を派遣する計画であります。

## 6. 現地活動

また、本年度は、プロジェクトの必要性に合わせて、盛だくさんの現地活動を計画しております。経費は、現地事情に鑑み、いずれも日本側から応分の協力がなされるものです。実施にあたっては、中国側の合理的な人員配置と全力投入が不可欠ですので、今からご協力をお願いしておきます。

### (1) 現地語教科書作成

正確、円滑かつ効率的に技術移転を行うために必要不可欠である。①交通管理、②交通安全、③交通指導・取締り、④車両管理、⑤交通工学、⑥交通規制、⑦交通管制、⑧高速道路交通管理、⑨交通統計の9分野の日本語教科書をもとに、現地語教科書を作成する計画であります。

### (2) ビデオ教材の現地語への吹替え

技術移転の重要な機材として、ビデオ教材多数が短期専門家によって現地に持ち込まれていますが、これらは、すべて日本語（ごく一部は英語）による説明であり、技術移転の実効をあげるうえで障害となっています。

したがって、これの活用を図るため、教材ビデオ50巻につき、現地語への翻訳・吹替えを行う計画であります。

### (3) 広報用パンフレットの作成

現在、コンパクトなプロジェクト紹介資料がなく、関係各方面の当プロジェクトに対する関心が薄いことの一因となっています。自動車検査設備の供与完了を機に、全国各都市の交通警察支隊等関係先に対し当プロジェクトの必要性、重要性を強くアピールするための広報用パンフレットを作成する計画であります。

### (4) カウンターパートの交通管制システムの国内先進地研修

カウンターパートは交通管理に関する現場経験のない者がほとんどであり、実務能力の向

上を図るため、また、1990（平成2）年度供与機材である交通管制システム据付け後の円滑な運用を期するため、国内最先進地といわれる広東省深圳市において、カウンターパート全員16名を対象とし、国内トップレベルの研究者、技術者による講義と実習を組み合わせた短期集中研修を行う計画であります。

(5) 運転技能（自動車運転免許）研修

全国の交通警察官幹部を教育・訓練する立場にあるカウンターパートの大部分が自動車運転免許不所持であり、これが理論的・表見的な面の学習に偏りがちで、実践的・实际的交通管理が十分に体得できない一因になっていると思われるので、現在不所持の者の中で身体条件等受験資格のある者全員（本年度は8名）に、自動車免許証を取得させることを計画いたしております。

(6) 交通視察・調査

昨年度に引き続き、本年度も、長期専門家とカウンターパートによる国内主要都市教箇所に対する交通視察・調査を行う計画であります。

以上、1991（平成3）年度の事業計画の概要を申しあげましたが、これにつきましては、あとの協議の議題でもご討議いただき、ご助言、ご指導を賜りますようお願い申しあげます。

7. 訓練センターへのお願い

本年度は、5月から6月にかけて、車検棟に最新式全自動車検システムの設備を取り付け、6月24日の引渡し式が無事終了、業務が開始されました。

この訓練センターで教育を受けることになっている地方の担当者や教官たちが、車検技術をマスターし、整備不良車両の一掃に機能をいかんなく発揮し、交通安全に大きく貢献する日が、もうそこにきていると思います。

センター側、なかんずく業務担当者は、1日も早く機器の操作に習熟され、日中双方の期待に沿えるよう、ご努力をお願いしたいと思います。

また、私の申しあげる「五合目こそ出発点」というリフレッシュ感覚で、私ども共々、この1年の業務計画遂行にあたっていただくようお願い申しあげ報告を終ります。

ご静聴まことにありがとうございました。



附 属 資 料

中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクトのための

技術協力に関する協議覚書



中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクトのための  
技術協力に関する協議覚書

国際協力事業団は、賀来敏を団長とする日本側巡回指導調査団を組織し、中国道路交通管理幹部訓練センタープロジェクトに関し、本プロジェクトの進捗状況の確認と今後の協力計画を策定するため、1991年6月20日から6月29日までの日程で、中華人民共和国に派遣した。

中華人民共和国公安部は、方善慶を団長とする技術協力調査団を組織した。

本プロジェクトを効果的に推進するため、双方は、6月24日から27日の間、江蘇省無錫市における第2回日中合同委員会に参加し、誠実で友好的な雰囲気の中で、当プロジェクトの進捗状況について調査し、平等、友好、協議、協力の原則に基づいて、一連の問題につき意見交換と真剣な協議を行い、その結果、双方は付属文書に記載する諸事項について確認した。

1991年6月27日 無錫

賀来敏

方善慶

賀 来 敏

方 善 慶

巡回指導調査団 団長

技術協力調査団 団長

日本国際協力事業団

中華人民共和国公安部

## 付 属 文 書

### I 中国側からの要望事項及び日本側回答

#### 1 C/P関係

##### 【中国側要望】

当プロジェクトの中で価値が最も大きな日本側の供与設備である交通管制システムを導入後よりよく運営し、効果を発揮するため、本年訪日研修を行うC/P馬慶につき、今回は特例として、在日研修期間を延長してほしい。すなわち、予定されている研修を終了したあと、主に当該システムの原理を学習・理解し、設備の保守及び操作方法を習得するため、製造メーカーにおいて1カ月間の研修を行いたい。

##### 【日本側回答】

本年度のC/Pを研修期間35日間で受入れる予定である。ただし、今回に限り、馬慶について、メーカーにおける研修をも取り入れることを検討している。

##### 【中国側要望】

私たちは、C/Pが日本の先進的な管理経験と技術を適切に消化・吸収・応用できるよう指導し、訓練センターの機能を一層発揮し、また、技術移転の円滑な発展を確保するため、当プロジェクトの責任者若干名を日本へ派遣して、交通管理の視察を行うことを希望する。

##### 【日本側回答】

C/P研修の枠の中で、プロジェクトの目的に沿った技術移転、日本の交通事情の視察であれば、日本に持ち帰り検討する。

#### 2 短期専門家派遣関係

##### 【中国側要望】

過去の短期専門家受入れの経験を総括すると、C/Pが短期専門家から学び、技術交流を行う十分な時間を保証するためには、短期専門家の派遣期間は、1人3～4週、1チームを2班に分け、北京で合流する方式が望ましい。

##### 【日本側回答】

今後の短期専門家の派遣については、1チームを前期と後期の2班に分けて派遣する予定である。なお、本年7月～8月に予定されている交通規制部門の短期専門家派遣については再び1チームを2班に分け、1班3週間とし、北京で合流するように計画している。



【中国側要望】

車両管理の技術移転の内容を充実させるため、車検設備に関する短期専門家をもう1度派遣し、C/Pに対し操作技能及び設備の保守管理等の内容について指導してほしい。詳細については、後日日中双方で協議する。

【日本側回答】

自動車検査設備の設置が完了したので、検査の実施要領及び検査設備の保守管理に係る短期専門家の派遣を1名検討しており、早期に要請書の提出をしていただきたい。

### 3 教材関係

【中国側要望】

短期専門家の講義の効果を高めるため、講義で使用する教科書と資料は予め中国語に訳し、C/Pの予習に供する必要があるので、従前通り、短期専門家が訪中する1カ月前に提供していただきたい。

【日本側回答】

教科書のうち、交通規制関係については、すでに提供した。残り9分野の教科書については、今合同委員会の席上提供した。

なお、教科書以外の資料については、可能な限り1カ月前までに提出していきたい。

### 4 広報関係

【中国側要望】

私たちは、当プロジェクトが我が国の交通管理事業の発展に一層貢献できるよう、プロジェクト紹介パンフレットを制作し、積極的に広報活動を展開する予定なので、日本側の協力をいただきたい。

【日本側回答】

この件に関しては、協力の用意がある。

### 5 機材関係

【中国側要望】

【マイクロコンピュータ】

わが国の交通管理におけるコンピュータ管理業務の全面的な推進に適應させるため、日本側からマイクロコンピュータ1台（参考機種：VAX系列）を援助・供与していただきたい。輸送と保守管理を考慮し、現地調達の方法が可能である。必要な手続きを、中国側は協力して行うことができる。中国側はコンピュータ室及び人員の配置等、関連付帯業務に責を負う。

マイクロコンピュータを導入しなければならない理由は、以下のとおり。

- (1) 近年、各地の交通管理部門は、徐々にコンピュータを使って統計、分析等の交通管理業務を行い始めており、この方面の人材が多数求められている。交通警察幹部と技術者を訓練する基地として、コンピュータ・コースを設け、管理幹部に対してコンピュータ知識を普及する必要がある。当プロジェクトの今後の発展に鑑み、大容量のデータバンク・システムを設立し、わが国の道路交通管理情報を保存し、訓練センターの教育、実習及び技術普及に資する。
- (2) 中国で日本の交通管理の先進技術を普及させるためには、コンピュータシステムと切り離すことができない。例えば、日本の点数制度を移植し、交通障害情報データバンク等を設立するには、みな大容量のコンピュータが必要となる。訓練センターのコンピュータ管理応用コースの教育を通じて、全国各地の交通警察幹部と技術者に各種の先進的な交通管理手段を伝授することは、必ずや、わが国の交通管理業務におけるコンピュータの応用を力強く押し進めるであろう。

【日本側回答】

本プロジェクトとの関連性について疑問があり、導入することは困難である。

【中国側要望】

【道路標示用設備（熱式ラインマーカ）】

道路の交通標線は、交通秩序を維持し、交通安全を保障するなど、極めて重要な役割を持っており、最も基本的な交通管理手段のひとつである。現在、わが国の交通標線工事の自動化程度は高くなく、標線の耐久性がよくないなどの原因で、道路標線、とりわけ公共道路の標線は極めて不備である。また、わが国の高速道路の発展に伴い、路面標線の施工速度、耐久性、反射性に対しても、より高い要求が出されている。

したがって、私たちが、熟練かつ合格する標線工事の技術者を訓練し、わが国の道路交通標線工事の質を高め、標線が交通管理の中で十分にその役割を発揮できるようにするため、日本側から熱式ラインマーカを供与していただきたい。

【日本側回答】

日本に持ち帰り検討することとしたい。

【中国側要望】

【教育実習用信号機等】

日本側の機材供与計画によると、日本側は、1992年3月までに中国側に対し、交通管制システムを供与する予定である。このシステムは、道路上に設置され、実際に運用される。そこで、教育実習の効果をさらに上げるため、日本側から、別に交差点状況を模擬する教育実習用信号機等の機材を供与していただきたい。

【日本側回答】

日本に持ち帰り検討することとしたい。

【中国側要望】

【C R T 運転適性検査機】

近年来、わが国の運転免許証所持者は急増しており、かつその大部分は職業運転手である。彼らは、しばしば長距離運転をするので、良好な心理的生理的資質が求められる。現在、わが国は、運転者の運行安全を確保するために、運転者適性検査を導入し、運転者が自己の心理上生理上の不足を見つけるのを手助けし、併せて、存在する問題につき必要な指導を行うことを考慮している。わが国は、この方面でいささか仕事をしているものの、実施手段等の面は大変立ち後れている。日本側からC R T 運転適性検査機を1台供与していただき、わが国の運転適性検査専門員の育成を推進したい。

【日本側回答】

日本に持ち帰り検討することとしたい。

## II 日本側からの要望事項及び中国側回答

### 1 センターの管理運営関係

【日本側要望】

人事面での一層の充実が望まれる。

当初計画によると、センターは40名体制で管理運営することになっている。現在までに29名の幹部及び職員が配属されているが、指導部を始めとして大部分が兼職又は兼務の状態である。機材は本年度分の供与をもって全体供与計画が達成されるので、センターの本格的な管理運営に必要な人員の配置を求める。これに関連して以下3項を提議する。

- (1) センター幹部の兼職解除・専任化の考慮
- (2) C/Pの事務職兼務解除・専任化の促進とこれに伴う専任事務職員の増員による事務局体制の強化
- (3) 通訳1名増員  
現在センターが配置している通訳は1名(C/P兼務)であるが、今後の技術移転に係る業務の増大と質的深化を考慮し、残りの協力期間中もう1名ハイレベルの通訳を配置していただきたい。

〔中国側回答〕

この問題については、中国側の基本的態度は日本側と同じであり、プロジェクトの一層の進展に伴い、センターの人事面の充実強化を徐々に図る所存である。

## 2 車検棟(自動車検査設備)の管理運営体制の整備関係

〔日本側要望〕

- (1) 配置される職員の氏名と任務を紹介していただきたい。
- (2) 施設の適正な運用を図るための管理規則制定と同施設を利用する検査マニュアル・研修計画(対象、期間、方法等)の策定を促進していただきたい。

〔中国側回答〕

2名の専任職員を転属させ、車検ラインの日常的管理に当たらせ、管理制度、業務制度をさらに整備し、早期に車検ラインの仕事を規範的な軌道に乗せる予定である。

## 3 交通管制システムの管理運営体制の整備関係

〔日本側要望〕

当プロジェクトの主要機材である交通管制システムは本年度内(1992年3月まで)に現地に到着する予定である。

当機材の設置に関しては中国側が責を負う付帯工事も多々あるので、機材到着後直ちに据付工事に着手できるよう準備していただきたい。工事関係諸機関との連絡並びに施工体制の指揮・責任体制を明確にして、順調な進捗管理をお願いしたい。

また、車検棟と同様に、職員配置、管理規則制定、研修計画の策定を前広に行ってほしい。

更に、交通管制システムを構成する電子計算機装置の現場調整とその他の保守作業を現地業者に委託する件について、中国側は上海DECと交渉してほしい。

なお、1992年12月25日までの上記現場調整と保守作業は、京三製作所と上海DECが契約する。

その日以降の保守委託は、中国側の費用負担になる。

【中国側回答】

交通管制システムは、当プロジェクトの重要な技術協力の内容である。中国側は当該システムの実施を非常に重視している。管制地域の交差点のチャネルリゼーション、標線標識の工事設計、道路の整備及び道路設備の据付基礎等の準備作業は、1992年2月末までにそれぞれ完成する予定であり、機材到着後の円滑な据付を保証する。

管制センターの内装工事は、すべて1991年11月までに完工できる。

また、無錫市公安局と市交通警察支隊は、1991年7月末までに管制センターの技術管理員6名を配置すべく、積極的に人員を物色中であり、関連施設のある他の都市へ実習に派遣し、事前に技術訓練を行う手配をしている。

さらに、管制センターの管理方法を事前に制定し、管理上の必要性に合わせる所存である。

コンピュータの保守管理業務については、上海DEC事務所と適時連絡を取る。

#### 4 C/P関係

【日本側要望】

C/Pによる教育訓練コースの実施が望まれる。

R/D附表I-1によると、中国側は

- (1) 交通管理指導幹部訓練コース
- (2) 専門技術者訓練コース
- (3) 学校教師養成コース

を実施することになっている。

技術協力は第3年目に入り、いよいよ本格的になってきたので、プロジェクトの目的に沿い本年度から技術移転と平行して中国側による教育訓練コースを開設し、C/P自らが教壇に立ち、教官としての資質を高める訓練を実施していただきたい。

また、日本語の習得に努力し、日本語で書かれた文献を翻訳できる程度まで能力を高めていただきたい。

【中国側回答】

(中国の年度 1~12月)

中国側は、現在、C/Pの資質の向上を図っており、1991年度末までに、交通工学と高速道路交通管理の2コースを開設するとともに、C/Pの日本語レベルと講義能力を早期に高める。

団 員 名 簿

日 本 側	中 国 側
調査団団長 賀 来 敏 警察庁長官官房審議官	調査団団長 方 善 慶 公安部交通管理局副総工程師 (副局長格)
機材供与計画 岡 崎 征 警察庁交通局交通規制課 交通管制官	公安部外事局 時 憲 民 アジア・アフリカ処 処長
研修計画 榎 田 好 一 警察庁交通局交通企画課 課長補佐	公安部交通管理局 郭 恩 徳 科学技術処 調研員 (処長格)
車両管理計画 飯 塚 紀 史 運輸省地域交通局陸上技術安全部 自動車整備課 補佐官	公安部交通管理局 沈 志 農 宣伝教育処 科長
協力企画 山 浦 信 幸 国際協力事業団社会開発協力部 社会開発協力一課 課長代理	公安部交通管理局 科学技術処 孫 笑 平 副科長

## 5 インフラ整備関係

### 【日本側要望】

- (1) 車検棟に付設する誘導路及び駐車場の早期整備の着手が望まれる。
- (2) 供与機材の車両が今年度内にすべてそろうので車庫の早期整備が望まれる。

### 【中国側回答】

現在、駐車場、誘導路、車庫の基盤建設の準備を積極的に行っており、公安部基盤建設計画への編入を勝ち取り、早期の完成を目指す。

## 6 本年度計画の変更

### 【日本側要望】

#### (1) 調査団派遣

1991年12月に派遣を計画していた「計画打合せまたは中間評価調査団」は、調査団派遣の全体計画が約半年ずつずれてきていること、また、次回調査団の派遣時期は、交通管制システム完成後が望ましいことを考慮し、1991年度分の調査団派遣については、これをカットして、来年度は1992年度計画の調査団を同年6月頃に派遣したい。

したがって、R/Dでは5回計画されていた調査団派遣は4回となる。

#### (2) 短期専門家派遣関係

当初計画で9月に5名、4週間派遣の「高速道路交通管理チーム」はC/P受入時期を考慮し、10.19～11.22.(2班編成)に変更したい。

### 【中国側回答】

同意する。

JICA